

事業報告

平成30年度 教育事業 タイニーキャンプ①

平成30年6月9日(土)～10日(日)

【対象】小学生(低学年)

【場所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

小学校低学年の子供たちが、親元を離れて共同生活や自然体験活動を行うことを通して自分に自信をつけ、協調性を育むきっかけづくりとする。

～主催・後援団体～

主催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

後援：伊那市 伊那市教育委員会

～活動日程～

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
1 日 目	10:30～ 受付 11:20～ 開会式					開 会 式	昼 食	活 動 準 備	”自然の中で遊ぼう” 「ぼうけんの森で 動物になって遊ぼ う」			夕 食	夕 食	入 浴	絵 本 読 み 聞 かせ	就 寝 準 備	就 寝
2 日 目	起 床	朝 の つ ど い	朝 食	清 掃	”みんなで作ろう！ みんなで食べよう！” 「すいとん作り」 「フルーツポンチ作り」			閉 会 式	13:20～ 閉会式 13:50 解散								

～参加者～

小学2年生 計40名（長野県：38名，山梨県：2名）

～活動トピックス～

活動Ⅰ 「動物になって遊ぼう」

講師：信州高遠青少年自然の家 職員

ぼうけんの森で、動物になりきって身体を思いっきり動かした。懸垂力・支持力・跳躍力の向上を狙った各種プログラムに皆全力で取り組んでいた。運動後は周辺の林を探検しながら皆で自然散策を楽しんだ。



活動Ⅱ 「絵本の読み聞かせ」 講師：ボランティア



各活動班毎、担当ボランティアが絵本の読み聞かせを行った。子供達が好きな絵本を数冊選び、各宿泊棟で静かに読み聞かせた。子供達は皆目を輝かせながら聞き入っていた。

活動Ⅲ 野外調理「すいとん・フルーツポンチ作り」

講師：信州高遠青少年自然の家 職員、ボランティア

野外炊飯棟で「すいとん」と「フルーツポンチ」を作った。子供達は野菜の皮をむいたり、切ったり、小麦粉をこねたり、缶切りを使ったり、火起こしの補助をしたりしながら一生懸命活動に取り組んだ。



～参加者の声～

《参加児童》

- ・ぼうけんの森で動物になって遊んだのが本当に楽しかった。ボランティアのお兄さんとお姉さんがとっても優しくかった。
- ・すいとんとフルーツポンチ作りが楽しく、とてもおいしくできた。
- ・はじめは緊張したけど、このキャンプで友達をいっぱいくれた。

《保護者》

- ・日記を書きながら大きな涙を流して「お姉さん、お兄さん達とお別れしたのが悲しい」「また会いたい」と言っていた。その後も話を聞こうとするたびに「楽しかった！」「会いたい」と言いながら涙ぐんでいて、本当に心に残る体験になったのを感じた。
- ・今まで、親と一緒にしか寝ることができなかったが、一人で眠ることができたことで自信がついたのか「今日は一人で寝てみたい」と言ってきた。驚きと少し寂しい思いとこのキャンプでの成長を感じた。

～成果と課題～

- 3つのめあて「挨拶をしよう」「自分のことは自分でしよう」「みんなで協力しよう」について、それぞれの活動場面毎に「がんばりカード」を用いて振り返らせた。自分たちの活動を振り返り、頑張ったらシールを貼ったことで、次の活動への意欲向上に繋がった。
- 昨年度の課題を踏まえ、実施した「webとFAXを用いた先着順」による参加申し込みを変更し、本年度は「抽選」としたことで、申込時の混乱もなく公正に参加者の決定ができた。
- 昨年のタイニーキャンプに参加した子供達から、ぼうけんの森の活動を経験しているから違う活動もやってみようという意見が出たため、今後は他のプログラムも含めてタイニーキャンプの内容を改善していく必要がある。

事業報告

平成30年度 教育事業 タイニーキャンプ②

平成30年9月29日(土)～30日(日)

【対象】小学生(低学年)

【場所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

小学校低学年の子供たちが、親元を離れて共同生活や自然体験活動を行うことを通して自分に自信をつけ、協調性を育むきっかけづくりとする。

～主催・後援団体～

主催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

後援：伊那市 伊那市教育委員会

～活動日程～

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
1 日 目	10:30～ 受付 11:20～ 開会式					開 会 式	昼 食	活 動 準 備	”自然の中で遊ぼう” 「ぼうけんの森で 動物になって遊ぼ う」			タ バ の つ ど い	タ 食	入 浴	絵 本 読 み 聞 かせ	就 寝 準 備	就 寝
2 日 目	起 床	朝 の つ ど い	朝 食	清 掃	”みんなで作ろう！ みんなで食べよう！” 「すいとん作り」 「フルーツポンチ作り」			閉 会 式	13:20～ 閉会式 13:50 解散								

～参加者～

小学1, 2年生 計39名

～活動トピックス～

活動Ⅰ 「動物になって遊ぼう」

講師：信州高遠青少年自然の家 職員, ボランティア

ぼうけんの森での活動を予定したが天候の関係でプレイホールで行った。冒険の森での経験はあるがプレイホールでのプログラムは初めてという子どもたちも多く、新鮮な気持ちで動物になりきって身体を動かすことができた。



活動Ⅱ 「絵本の読み聞かせ」

講師：ボランティア



活動班毎に担当ボランティアが子どもたちの気に入りそうな絵本や大型紙芝居を事前に準備し読み聞かせを行った。ボランティアの工夫された読み方に子どもたちも真剣な眼差しで聞き入っていた。

活動Ⅲ 野外調理「すいとん作り」

講師：信州高遠青少年自然の家 職員，ボランティア

野外炊飯棟で「すいとん」を作った。台風の接近に伴い煮込みは食堂にお願いするなど工程の一部を省いたが、子どもたちは野菜の皮をむいたり切ったり、小麦粉をこねたりすいとんを思い思いの形に作ったりしながら楽しそうに活動に取り組むことができた。



～参加者の声～

《参加児童》

- ・すいとん作りで好きな形に作ることができて楽しかった。とてもおいしくできた。
- ・台風でできないこともあり残念だったが、みんなと仲良くなれて楽しかった。
- ・ボランティアのお兄さんとお姉さんがとても優しくかった。また来たい。

《保護者》

- ・不安にしていたみたいでしたが、ボランティアの方々がとても優しく、楽しく過ごせたみたいですね。お友達もすぐにでき、別れる時淋しくなるほど仲良しになれたみたいで本人にはすてきな思い出になったみたいです。
- ・わずかな時間であったが子どもがたくましくなったように感じました。

～成果と課題～

○台風の接近に伴いプログラムや日程を一部変更することにより参加者及びスタッフの安全性を優先した活動を進めることができた。

- 「動物になって遊ぼう」では移動のための時間や散策の時間が必要なかったため、活動自体が長くなってしまい、飽きてしまう傾向があった。第一回目の反省点と合わせ細案を見直していく必要がある。



事業報告

平成30年度 教育事業 タイニーキャンプ③

平成31年2月16日(土)～17日(日)

【対象】小学生(低学年)

【場所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣 旨～

小学校低学年の子どもたちが、親元を離れて共同生活や自然体験活動を行うことを通して自分に自信をつけ、協調性を育むきっかけづくりとする。

～主催・後援団体～

主 催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

後 援：伊那市 伊那市教育委員会

～活動日程～

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
1 日 目						開 会 式	昼 食	活 動 準 備	”雪の中で遊ぼう” 「そりあそび」 「ネイチャービンゴ」			夕 べ の つ ど い	夕 食	入 浴	絵 本 読 み 聞 かせ	就 寝 準 備	就 寝
2 日 目	起 床	朝 の つ ど い	朝 食	清 掃	“みんなで作ろう！ みんなで食べよう！” 「けんちん汁&おにぎり作り」			閉 会 式									

～参加者～

小学1・2年生 計35名（長野県：32名、山梨県：1名、東京都：1名、静岡県：1名）

～活動トピックス～

活動Ⅰ 「雪の中で遊ぼう」～冬の自然体験活動～

講師：信州高遠青少年自然の家 職員

120mのそりコースを使い、そり遊びを行った。少ない積雪ではあったが子ども達は皆、身体を上手に使いバランスをとりながら滑っていた。そり遊び後はネイチャービンゴを行った。グループ毎に森の中で自然を観察しながら、色や形、匂いや手触りなど諸感覚を使って自然を感じることができた。





活動Ⅱ「絵本の読み聞かせ」

講師：ボランティア

グループ毎、担当ボランティアが絵本の読み聞かせを行った。子ども達が好きな絵本を数冊選び、各宿泊棟で静かに読み聞かせた。子ども達は皆目を輝かせながら聞き入っていた。

活動Ⅲ みんなで作ろう！みんなで食べよう！「けんちん汁・おにぎり作り」

講師：信州高遠青少年自然の家 職員、ボランティア

「けんちん汁」と「おにぎり」作りを実施した。子ども達は野菜の皮をむいたり、切ったり、おにぎりをにぎったり、一生懸命活動に取り組んだ。子ども達からは「みんなで作ったごはんは、すごくおいしい！」と笑顔あふれる調理体験となった。



～参加者の声～

《参加児童》

- ・そり遊びが楽しかった。お兄さんお姉さんが優しくかった。
- ・初めてお父さんとお母さんと離れて過ごしてさみしかったけど、友達ができて嬉しかった。
- ・山の中はすごく静かだった。自然の中でいろんなものを見つけた。

《保護者》

- ・以前は、楽しかったことがあっても言葉ではあまり伝えてくれませんでした。今回はしっかりと自分の気持ちや感じたことを伝えることができ、すごくうれしかったです。夜、話を聞いて思い出してしまい泣いてしまいました。本人にとってすごく成長をしたと思います。
- ・「すごい楽しかった！」と大満足の様子でした。大学生のお姉さんと、班が一緒になった女の子と仲良く過ごし、さみしい思いをすることなく一緒にいろんな体験をさせてもらったことで、人と関わること、新しい環境でも一人で頑張れること、娘にとって大きな自信になったと思います。

～成果と課題～

- 活動毎に「がんばりカード」を用いて振り返りを行った。キャンプでの目標を明確に示し、カードを使って自分たちの活動を振り返ることで、次の活動への意識づけや意欲の向上につながったと感じる。
- 今年度は降雪量が少ない中ではあったが、職員により雪を運び入れ、実施することができた。そり遊び後に行ったネイチャービンゴではグループで協力して課題を見つける姿が見られ、冬の時期のならではの自然を観察・発見する機会になったと感じる。今後、プログラム内容を検討しながら充実を図っていきたい。
- 降雪量が少なくなってきており、雪の中での十分な活動が実施できていない現状がある。雪の中での活動は参加者、保護者からのニーズもあるため開催時期の検討が必要である。